

橋本久仁彦さんアナウンスメール

(ジャンル：ダンス・バラエティ) **時系列** (2010年11月からの半年間)

2010/12/06~2011/04/21 (逆順)

橋本さんのアナウンスメールの文章と、その中に含まれているフェンスワークスの文章（ゴシック）を掲載しています。主催の方の言葉や、お仲間の言葉、参加した方の言葉、削除するのが惜しいものがたくさんありますが、どうしても削れないものを除き、絞らせていただいています。

橋本さんのお考えのかかれていない案内は案内自体省いています。

重複している文章は、古いほうを残しています。

2011年5月 吉橋 編

目次

パー活ラボ2011（パートナー探し活動）のご案内 2011/04/21.....	2
ダンサーの視界とプレイバックシアター@應典院 2010/01/21.....	3
新春・まっくらプロジェクト開始・第一弾「まっくら耳なし芳一 with くにちゃん」のお知らせ 2011/01/02	5
ケア・コンタクト・インプロヴィゼーションクラスのご案内 2010/12/27	8
「滅びゆくカラダとともに」レゾナンス・コンタクト・インプロ・ダンスクラスのご案内 2010/12/17 12	
即興ダンスワークショップ ten times with 黒子沙菜恵×橋本久仁彦のご案内 2010/12/06	16

パー活ラボ2011（パートナー探し活動）のご案内 2011/04/21

皆様へ。

奈良には万葉まほろば線という電車や京終（きょうばて）駅という駅名があります。口にするだけで、人生のロマンや浮き沈みまで感じてしまいそうな名前ですね。

「あおによし ならの都は咲く花の 匂うがごとく今盛りなり」
万葉の雰囲気は今も息づくその奈良に住む面白い仲間たちとのご縁があって、表記のようなコンセプトでのWSを行うことになりました。

一見ミーハーな感じがするでしょうか？

そうかも。。。でも僕にはとても面白そうに見えています。

パートナーを得る、というニーズに応えるための宣伝や団体の活動を見聞したことがあり、またそのような団体を利用した友人もいたので、一般の人々が関係性を求めているんだなあ、と漠然と思っていました。

もし僕なら、人生のパートナーを求めている人たちにどんなアプローチをするのだろうか？

僕自身は自分のパートナーシップについてどう感じているのだろうか。

などの問いは、振り返ればいつも自分の心の中にあった問いでした。

5月のよき日に、未婚の方も既婚の方も、離婚の方も再婚の方も、瞑想中の方も、係争中の方も、

この人類2千年の古くて新しい問いに真摯な関心を持つ仲間同士として、新たな出逢いと交流の場をご一緒できればと思います。

なぜかワクワク楽しみです。

はしもとくにひこ

ダンサーの視界とプレイバックシアター@應典院 2010/01/21

皆様。

ダンスクラス@すまいるもビヨンド・ザ・フェンスも、手狭な会場にそれぞれ 20 数名を数える参加者においていただいて、とてもありがたく思っております。

今後ともよろしく願いいたします。

さて、来週 25 日、26 日の火曜日と水曜日は應典院でのプレイバックシアターです。

26 日にはダンサーの黒子さなえ氏がゲストとして WS を担当してくださいます。

プレイバック劇団であるシアター・ザ・フェンスのメンバーでコンテンポラリーダンサーのむっちゃんこと岡山睦美が、先日の黒子氏のダンスクラスを見学して感想をシェアしてくれました。

ダンスについての興味深い視界の一つとしてご紹介したいと思います。

「・・・私たちの身体と心の関係は、皆さま、周知の通りとっても、深い関係にあります。

乱れた感情の影響で、身体が、緊張したり・・・緊張では、言い方甘いですがよね？硬直したり、作動停止を起こしたり・・・m_ _m。

こういう状況の時には、たいてい、身体への意識がお留守になってしまい、身体は、悲鳴を上げっぱなしになってしまいます。

この身体の悲鳴に気付こう！！というのが、あの形のワークだと思えます。

想像で十分なので、からだの中をできるだけ細かい単位（点や線）でくまなく意識を向け、そこを動かしてみるわけです。

そうすると、ある傷を隠すために、ずーーーーっと動いていない部分に

何十年ぶり（ひょっとしたら、何千年ぶり?!）に会う（気付く）ことができてきます。

あの時のあの記憶が、この痛み・・・。

この気付きを得るには、自分を見つめる冷静さが必要になってくるわけです。

気づくことで、痛みを癒し、記憶を手放すことができ、
より快適な身体に生まれ変わることができる・・・。

そんな魅力的なワークだと思います。

私たちダンサーは、無表情で踊る（動く）ワーク（トレーニング）もよく積みました。

身体の中で、たくさんの情報処理機能を司る頭（顔を含む）を効率よく（冷静に）
働かせるためです。

顔に無意識で表情が出ているということは、何か感情にとらわれている・・・

顔を無表情に（リラックス）することで、動きながらの広い視野の獲得を練習しました。

（後略）」

むっちゃんのダンスは目に見えないカラダを感じさせる気持ちのよいダンスで、
僕は大好きです。

ダンサーの視界って本当に面白いですね^^

今回は、應典院が力を入れている企画「アートと NPO の総合芸術文化祭・
コモンズフェスタ」にフェンスワークスが協賛して実現しました。

ご来場を心からお待ちしています。

PT プロデュース 橋本久仁彦

新春・まっくらプロジェクト開始・第一弾「まっくら耳なし芳ー with くにちゃん」のお知らせ 2011/01/02

新年明けましておめでとうございます。

旧年中は僕の活動や、新たな展開のために設定したユニット、「フェンスワークス」にも暖かいまなざしを賜り、誠にありがとうございました。

2011年も、自己の内的視界の眼前に広がるビジョンに基づいて皆様とともに「面白い時空間」を創造していきたいと思っています。

例えば、茶道で言うところの「一座建立」という、日本独特の場作りの「見立て」などにアクセスしながら

エンカウンターグループ^o やダンス、プレイバックシアターやセラピーなどの西洋発信のグループメソッドを、

今、我々がそれぞれのカラダを預けて住んでいるこの町、この土地での等身大の「場の構造」「座の建築」として見つめ直してみるのはどうでしょうか。

実際に生身で感じて触れることのできる具体的な現場を皆様と作り上げながら行う探求は、本当に刺激的で楽しく、時間を忘れてしまいます。

他の誰でもなく皆様がこの同じ時空間に生きておられること、その姿を見、その声を聞くことのできる皆様の実人生が僕の周りに絶えることなく展開し続けていること、それは僕にとっては皆様の「臨在」と呼ぶにふさわしい、ただ事ではない出来事です。

今年も皆様とともに「旅の道連れ」となって歩ませて頂けますことを光栄に思っています。

ご縁の尽きる季節が来るまで、どうぞよろしく願いいたします。

橋本久仁彦

さて、このお正月は小泉八雲の名作「耳なし芳一」で
皆様と「遊び始め」をしたいと思います。

今、僕の手元に一枚の CD があります。

「バーチャル怪談・耳なし芳一」と銘打ったこの CD、製作スタッフも
聞いて驚いたという怪しい音声が混じり込んでいる（！？）
いわく付きの朗読作品です。

耳なし芳一伝説の舞台となったのは山口県下関市阿弥陀寺
（現・赤間神宮）内にある平家一門の墓場で、作品に録音されている
風、カラスの声などの自然音も現地で収録されました。

ミニカウンセリングの研修を経験された方には、
対話する二人の周囲に生起する環境音が、
物語の出現にともなって、意味や存在感のシンクロを起こすことは
周知のことでしょう。

鼻をつままれても分からないスタジオ CAVE の真っ暗闇の中で
音と物語が我々に伝えてくるシンクロシティに耳を傾けてみましょう。

一人ひとりがきっとあなただけの耳なし芳一と出会うことになるでしょう。

ドキドキ、楽しみです^^。

一緒に聴く者この指とまれ。。。ですうう。。。。

くにちゃんより。

追伸。

今年も僕はフェンスワークスの機動力を存分に生かして
やりたいことを思い切りやっています。

よろしければぜひフェンスワークスのメーリングリストに
ご登録ください。

ピチピチ活け造りのアクティビティをお届けいたします！

メールマガジンの登録はこちらへご連絡ください。

fenceworks2010@gmail.com

～ まっくらプロジェクト、はじまります～

第1弾：まっくら耳なしほういち

2011年1月9日(日)

スタジオ CAVE の真骨頂を魅せる時が、ついにやってきました・・・!!
隣の人の顔もみえなくなる、そんなまっくら闇でおもしろプログラムが目白押しです。

第1弾は「耳なし芳一」^^。橋本久仁彦氏がナビゲートするプログラムです。

橋本 久仁彦

ケア・コンタクト・インプロヴィゼーションクラスのご案内 2010/12/27

皆様へ。

クリスマスのビヨンド・ザ・フェンスはお蔭様で
満員御礼の祝祭的プレイバックシアターとなりました。
ご来場くださった皆様に心よりお礼申し上げます。

さて、新春のダンスクラス第3弾として
ケア・コンタクト・インプロヴィゼーションのコンセプトを
シェアしたいと思います。

僕は今81歳の母親と同居しています。
脳梗塞の為、半身麻痺なので杖を右手に持って
ようやくゆっくり移動できます。

先日正面から床に倒れて胸を強く打ちました。

僕が助けて仰向けにはしましたが、「胸がボキッと言うた！」と
痛がります。
結局、救急車を呼んだのですが肋骨が3本折れていました。

点滴と肋骨を固定する処置のあと、車椅子で家まで帰ってきました。

トイレやテレビを見るときなど、介助が必要なので、家人が手を貸します。
僕もベッドから起こしたり、歩くのを補助したりするのですが、
用事のあるときなどは面倒くさく感じてしまうことがあります。

そんな時は、手先がぞんざいになり、母は、「痛い痛い！」と泣き声を
あげます。その声を聞くと、僕まで辛くなってしまいます。

ところが先日、劇団フェンスの仲間との忘年会の後片付けをしながら娘の仁美がこう言いました。

「私も呼ばれていくとき最初はめんどくさいけど、関わった後に元気になってる自分に気づくねん。ばあちゃんのどこに自分の身体を接続したらいいかわかるみたい。補助する手がばあちゃんの身体の一部になるような。」

私は介護が得意なのかと思ったけど、そうではなく、これはばあちゃんと私の間でしか成立しない身体感覚。それに基づいて動くと、介助したあと、エネルギーが上がる。ダンスした後に似てるのかなあ。」

介助とダンスが同じ体験になるのでしょうか？

かつて旭川でワークショップをしたとき、コンタクト・インプロをととてもスムーズに、優雅に行う40代後半の女性参加者がいました。

僕は「コンタクト、どこで経験されたんですか？」と尋ねたのですが、「今回は初めてです。」とのこと。

驚いたので、詳しく聞いてみると、彼女は20年来、自閉児や多動の子供たちの施設の職員をしていて時に殴られたり蹴られたりして、疲れ果て、もうこの仕事は向いていない、と弱音を吐く日々だったそうです。

ある多動の子供に取り組んでいるとき啓示が訪れます。「これはダンスなんだ！」

この子の目線を見て、この子のよじれる筋肉についていって、この子の声をそのまま聞くんだ。

その時彼女は子供以上に自分のカラダを積極的に動かして、
冴えた意識を保ちながら、子供の複雑な動きとデュエットしていたのです。

僕は彼女がワークショップで他の参加者と踊っている姿を見て
なぜか涙が出てしまいました。

その動きの優雅さ、相手と同じ目線の高さでついていくていねいさ、
まるで相手の肉体が心という見えないからだで包まれているのを
知っているかのようなやさしく、繊細なタッチ。。

彼女のコンタクトは、デュエットする相手との、動きの同調や
感情の共感を超えて、存在感、つまりその人がその中で生きている
世界観の共有でもあるのだと思います。

そして踊り終わった後の二人は、あふれるような笑顔です。

二人のフィールド（間・あいだ）の磁力が上昇し、
明るい雰囲気部屋中に浸透します。
僕はこのような空間現象を「光度の上昇」と呼んでいます。

これが僕の見た「ケア・コンタクト・インプロヴィゼーション」です。

一言で言えば、これは愛のダンスです。

男女の情熱的な愛というよりは、隣人や「弱きもの」におのずと向かい
ごく自然に「浴う者」（コンタクトする者）となる人間の慈愛の一側面が
動きになったものだと思います。

「ケアする人のケア」というテーマで援助職についているワーカーの

ための研修を行ったことがあります。現在の僕は、このような研修の時には、リスニングのトレーニングと並んでケア・コンタクト・インプロのレッスンを行います。

レッスンする際の指標を、以下のようなキーワードで示します。

リスニング（聞くこと）
アチューンメント（同調）
コヒーレンス（つながり）
レゾナンス（共鳴）
アンプリファイ（増幅）
フォーティファイ（守りを固める）
モルフォジェネティックフィールド（形態形成場）

2010年は、3、4年分圧縮したみたいにいるいろいろやりたいことができて、面白い一年でした。

すべての時間を自分のものだと感じて生きるのは楽しいです。

来たる2011年も皆様と一緒できますことを幸せに思っています。

PT プロデュース はしもとくにひこ

「滅びゆくカラダとともに」レゾナンス・コンタクト・インプロ・ダンスクラスのご案内
2010/12/17

皆様へ。

新春のダンスクラス第2弾のご案内です。

我々の体は若さのピークである18歳頃を境にして
衰え始めると言われています。

実存的に言えば、生まれた瞬間から消滅へ向かう旅を
開始したのが我々人間の宿命だとも言えます。

いつの間にか50の峠を越えてしまった僕などは
筋肉は硬く、関節はさびつき、肝心な器官は緩んで
始末におえないカラダに日々直面しております^^

僕に必要なのは、老化と消滅の宿命を背負う者達が喜びとともに
オドレル新鮮な生命に満ちたダンスです。

カウンセラーとしてリスニングの法則を目撃し、
セラピストとして抑圧された愛や怒り、悲しみが人生全般に影響する
様子を観察し、

アーティスト(?)としてプレイバックシアターやダンスの舞台をプロデュースし、
人間として瞑想や宗教にコミットしてきた僕は、

この数年コンタクト・インプロヴィゼーションとの出会いを機縁として、
プレイバックシアターやダンスや舞踏の形質に「存在感」という
神聖なエネルギーが流入することを可能とする舞台の「構造」と、
「存在感の構造」としての人間の心身の営み(=表現)を観察してきました。

ここで一つ、やがて死んでいく自分自身と敬愛する仲間たちのために
楽しく開発中の「オドリ場」を提案したいと思います。

ダンサー（舞踏家）は実はフィールド（場に現れる力）とデュエット
するのだと思います。

僕にとってはそれ自体で生きている生命体としてのフィールド（生命域）
に敬意を込めて、そのオドリ場を
「レゾナンス・コンタクト・インプロヴィゼーション」と呼んでみます。

レゾナンスとは共鳴するということ。

共鳴とは振動（バイブレーション）のこと。

振動とは我々の身体を出入りするエネルギーのこと。

エネルギーとは、呼吸、心臓の鼓動、新陳代謝などを通じて
我々の身体機能の停止のときまで働く、現代科学がまだ完全に
捉えていない正体不明のパワーのこと。

このパワーはいくつもの界層を持っていて、
我々の思考や認識、愛、友情、尊厳といった本質世界へも
浸透しています。

レゾナンス・コンタクト・インプロヴィゼーションは、
滅び行く身体から、本質界に存在し続けるカラダまでの
各界層を、共鳴しコンタクトしながらオドル即興の
ダンス・スパイラルです。

即興とは、即発して興ってくる「力」です。

これはカウンセリングで人が変容（上昇 or 深化）していくときに
見られるエネルギー現象と同質のものですが、
このエネルギーの可視形態はスパイラルなのです。

なんだか文字で表すとそれなりにかっこいいですね^^

実際のレッスンの特徴は、

①もういい加減見捨てようかと思っていた自分のカラダの不自由な状況を
全肯定してオドルのでカラダとココロが喜ぶこと。

②その影響でデュエットする仲間たちの様々なカラダ=在り方=生き様に
関心と敬意を持てるようになること。

③安心して存在できるレッスンの場（ファシリテーション）から形態化してくる
自分自身の唯一性や創造性と対話して、他者のまなざしの中（舞台）に立ち、
「お客様に見ていただくという楽しみ」・「アーティスティックで神聖な質感」
を追求すること。

④そして消滅（するのは何でしょう？）していくその瞬間まで、
踊り、躍り、オドル、、、こと。

⑤ミニカウンセリングにおけるリスニングが、「聞くもの」が「聞かれるもの」に
転回するターニングポイントを持つように、存在に向かってこちらから
「オドルもの」は、存在によって向こうから「オドラレルもの」へと位相を
変えるポイントを持ちます。

⑥今気づきましたが、これは「哲学するオドリ」だと思います。

「オドッテイル哲学」かな。

オドルことでなぜか「正しく」考える力が身につきます。

オドッテイナケレバ（共鳴がなければ）、思考は自己中心性という
重力圏内で歪み、客観的な視力を保てません。

オドリナガラ、人間の謎に迫る認識論や存在論の講義をします（できるか？）

⑦正しく考える「コト」と、共鳴してオドル「コト」を混ぜると濁りのない「ヨロコビ」ができます。。

橋本 久仁彦

皆様へ。

いよいよ今年も最後の月になりました。

お元気でしょうか^^

さて来たる2011年初頭に皆様と分かち合いたいビジョン（視界）の第一弾は、

ダンサー・振付家の黒子沙菜恵氏と僕、はしもとくにひことの
コラボレーションで提案するコンテンポラリー・ダンス？の
ワークショップ10回コースです。

教育や心理療法など、人間の本質に関心を持たざるを得ない仕事に
関わる僕にとって、黒子氏のダンス観、身体観はとても親近感を
覚える景色だと言えます。（末尾の黒子氏のことば参照）

すでにたくさんの公演実績を持ち、国際的にも活躍中の氏ですが、
僕が彼女のダンスをはじめて見たのは、
自閉やダウンの子供たちとオドル姿でした。

彼女も一度、僕がファシリテーターをしていたエンカウンターグループに
来てくださった事があります。

なかなか言葉で人に伝える事が難しい活動をする二人にとって、
今回のような袖（そで）触れ合うことから始まったご縁はありがたく、
うれしいことです。

黒子氏が自由に彼女のダンス世界とアクセスしながら、
10人ほどの少人数のメンバーに働きかけます。
（レッスンと言っていいでしょうか？）

僕は、生徒のひとりとなって他の皆さんと一緒に一生懸命に
オドルつもりですが、

時には手を抜きながらオドリ、時には批判的に文句を並べ、
時には生意気に存在論を仕掛けたりして場を揺さぶりたい
と思います。

すべての人間や現象がすでにオドッテイルという視点を共有する二人から建築されていく場ですので、きっと斬新なオドリの構造を体験（フィールドワーク）できると思います。

わくわくしながらご縁のある皆様に呼びかけたいと思います。

新しい時代の幕開けとなる2011年をともにオドリ始めましょう。

僕は自分がこの人生を終えるその一瞬まで、一緒に仲間と踊っていたいと常々思っています。

そのために、
時にはレスリングをしているように激しくオドリ、
時には老女の指先から発するかすかな気配でオドレルような「ダンス」を見出していきたいと思っています。

そのウエで、
お客様のまなざしが生み出す磁場の中でオドル場（オドリ場）を作って、その場（シアター）にいる全員がシアワセになっていく構造について言語化し、
我々自身のための芸術・アートを新たに定義付けることにしましょう。

そのナカで、
我々の肉体が徐々に衰えて硬化し、機能を停止していく
そのプロセスからむしろ力を得て生き生きと内面で成長し続ける
「新たな身体の機能性」を提案することになるでしょう。

そのヨウな、
「新しい」カラダで踊るダンサーのことを、
僕はネガティブ・ダンサー（生の背景をオドル者）と呼んでいます。

楽しみです。

橋本久仁彦

黒子沙菜恵氏のことば

ここにユニークな身体が集まったとき、

私はそこから見えてくる身体の表情を感じたいと強く思います。

それは「認める」という事なのではないかと思うのです。

そしたら、身体から面白い瞬間がぽろぽろ出てきて、、、

本当に面白い。だから笑ってしまう。そして感じるものがたくさん。

私はこの10回のwsが、ここにいる時間、いっぱい感じて、いっぱい笑って、

そして身体でたくさん対話をする、そんな時間になればいいなと思っています。

いわゆるダンスのワークショップではないかもしれないし、

時にはとってもダンスかもしれません。

これはダンスかダンスではないか？

そんなことは大したことではないような気がします。

あなたの身体が感じればそれはきっとダンスなのです。

まず私自身が突き動かされる何かに出会ってみたい、そんな衝動があります。

そして時にはあなたの身体が揺さぶられるかもしれません。それがまたいいのです。

それを是非感じていただきたい。そしてそれを私は見てみたい。

この簡素な身体が存在こそ豊かで分厚い。

生きていることがまさしくダンス。

身体同士で響きあう、

そうしたら思いもよらない想像の枠を超えて色々なことが
起きてくるのです。

混沌な時間の中には豊かさが沢山あります。

ユニークな身体とユニークな関係性があちらこちらにあるのです。

私自身もその中にいる一個のユニークな身体なんだと感ずるのです。

是非、カラダ一個でお越しくたさい。

その瞬間生まれるものを一緒に探っていきたいと思っております。

黒子 沙菜恵 Sanae KUROKO/ダンサー